【実践報告１】

カリキュラム・マネジメントの在り方に関する研究の取組

一宮市立今伊勢小学校　教諭　粟野　覚

１　はじめに

一宮市は愛知県北西部に位置し，人口は岡崎市に次いで愛知県内４位であり，繊維産業の町として発展してきた。本校は昨年，開校から 113 年目（2019 年度現在）を迎えた，伝統ある学校である。一宮市のほぼ中央に位置し，全校児童 963 人，31 学級（うち特別支援４学級）の，市内の小学校の中で２番目に大きな学校である。コミュニティ・スクールを推進し，保護者や地域の方も学校運営へ参画するなど，保護者・地域と連携して子どもを育てている。

本校は「心身とも健康で，確かな力と豊かな心を持った今伊勢っ子を育成する」という教育目標のもと，「力いっぱい　いい笑顔」をスローガンに，誰もが笑顔で頑張ることができる学校づくりに努めている。平成 27 年度から現職教育において「確かな学力をもち，豊かに表現できる児童の育成をめざして」をテーマに，基礎基本の定着や，思考力・判断力・表現力を伸ばす授業実践に取り組んできた。そして，平成 30・令和元年度の２年間は，カリキュラム・マネジメントの在り方に関する研究の指定を受けた。特に教育目標の実現に向けての重点項目として，「自分の考えをもち，自ら学び，力をつけよう」の実現を目指し，授業改善に取り組んだ。

２　研究の経過

(1)　カリキュラム・マネジメントについて理解し，教育目標（目指す子どもの姿）の共通理解を図る（グランドデザインの作成）

①　学校の教育目標の実現に向けた現状の把握

ア　児童についての現状分析（現状把握シート）

イ　学校の内部・外部環境の分析（ＳＷＯＴ分析シート）

ウ　学校の現状と課題の把握（カリキュラム・マネジメント検討用シート）

②　学校の特色づくりに向けた取組

ア　学校経営や教育実践の有効性や優先順位の明確化
（カリキュラム・マネジメント実行策検討シート）

イ　学校の現状・課題・将来像に基づいた学校経営の共有化
（カリキュラム・マネジメント分析シート）

③　グランドデザインの作成

(2)　育成を目指す資質・能力と関連付けた授業改善

①　各教科等で育成を目指す資質・能力の検討
（資質・能力の育成に向けたカリキュラム・マネジメントシート）
（各教科でのカリキュラム・マネジメントシート）

②　育成を目指す資質・能力との関連を意識した授業実践

(3) 学校の教育目標の実現に向けた取組

平成30年度	
５月29日	第１回カリキュラム・マネジメントの在り方に関する研究協議会
５月30日	５年生授業研究・検討会
６月４日	カリキュラム・マネジメントに対する取組についての検討，教務主任によるＳＷＯＴ分析シートの実施
６月18日	カリキュラム・マネジメントに対する取組について概要説明，企画委員会において学年主任とともに現状把握シートの実施
６月19日	２年生授業研究・検討会
６月21日	カリキュラム・マネジメントに対する取組の概要説明と「授業改善に向けたカリキュラム・マネジメント検討用シート」の作成
６月22日	３年生授業研究・検討会
７月２日	「授業改善に向けたカリキュラム・マネジメント検討用シート」の集計と分析
８月29日	第２回カリキュラム・マネジメントの在り方に関する研究協議会
９月25日	カリキュラム・マネジメント分析シート作成
11月１日	１・４・６年生授業研究・検討会
11月９日	第３回カリキュラム・マネジメントの在り方に関する研究協議会
12月13日	カリキュラム・マネジメントに対する取組の概要説明２，カリキュラム・マネジメント検討委員会設置予告
12月17日	グランドデザイン検討
12月26日	第４回カリキュラム・マネジメントの在り方に関する研究協議会
２月14日	カリキュラム・マネジメント１年目の取組の振り返り
３月11日	カリキュラム・マネジメント２年目の取組に向けての検討，グランドデザインの見直し
令和元年（平成31年）度	
４月３日	カリキュラム・マネジメント２年目の取組について全教職員での確認１
４月10日	カリキュラム・マネジメント２年目の取組について全教職員での確認２
５月７,13,20,30日	カリキュラム・マネジメントを意識した授業実践に向けた指導案検討会
６月10日	カリキュラム・マネジメントを意識した授業実践・研究協議会１
８月22日	名古屋大学大学院　教授　柴田好章　氏を招いた授業実践・研究協議のもち方に関する検討会
９月５,19日 10月10,24日	カリキュラム・マネジメントを意識した授業実践に向けた指導案検討会
10月30日	カリキュラム・マネジメントを意識した授業実践・研究協議会２

(4)　評価・改善について

①　学校の教育活動全体を通した取組の評価

②　「教育目標（目指す子どもの姿）に近づいているかどうか」の評価

３　研究の目的

学校教育目標

心身とも健康で，確かな力と豊かな心を持った今伊勢っ子を育成する。

・命を大切にし，心豊かでたくましい身体をつくろう。
・自分の考えをもち，自ら学び，力をつけよう。
・きまりを守り，礼節を重んじ，思いやりのある生活をしよう。
そして，みんなで築こう誇れる今伊勢小学校。

この目標の実現に向けて，全教職員が同じ方向性で教育活動に取り組むことで，教育効果を上げることを目指す。

１年目は，学校の現状を把握し，カリキュラム・マネジメントについて協議，検討する。授業研究において，「対話的な学び」について考えることで，対話活動の中に表れる児童一人一人の考えや，対話における考えの高まりについて考える。

２年目は，特に教育目標の中の「自分の考えをもち，自ら学び，力をつけよう」の確実な実現に向け，特にキャリア教育の基礎的・汎用的能力の一つ，「人間関係形成・社会形成能力」（他者の個性を理解する力・コミュニケーション・スキル等）の視点を意識しつつ，授業改善を行う。また，年度始めに年間指導計画を確認することで，教科等横断的な取組，外部の資源の活用等について考える。

４　研究の方法

(1)　教育目標（目指す子どもの姿）の共通理解を図るための校内研修

①　学校の教育目標の実現に向けた現状の把握

ア　児童についての現状分析（現状把握シート）

主任者会において，学年主任・学校四役が協議して作成した。学年ごとにおける問題意識の差について確認し，共有化する。総合教育センターでの研究協議会時に，今後の進め方についても確認する。

イ　学校の内部・外部環境の分析（ＳＷＯＴ分析）

教務主任がＳＷＯＴ分析シートに記入した。カリキュラム・マネジメント分析シートやグランドデザインの作成の資料とする。

ウ　学校の現状と課題の把握（カリキュラム・マネジメント検討用シート）

１学期末に全教職員に実施。集計を通して，現状の把握をする。職員における学校の教育目標の把握が十分にできていない，ふだんの教育活動においてＰＤＣＡサイクルの中で，Ｃ（チェック）・Ａ（改善）が十分にできていない等の課題が明確になる。

②　学校の特色づくりに向けた取組

・学校の現状・課題・将来像に基づいた学校経営の共有化
（カリキュラム・マネジメント分析シート）（**資料１**）

教務主任が案を作成し，学校四役で検討しカリキュラム・マネジメント分析シートを完成させることで，現状の把握に努める。後にグランドデザイン（**資料２**）とともに，現職教育において全教職員に配付し，現状分析の結果を伝える。

③　グランドデザインの作成に向けた取組

教務主任が学校経営案・カリキュラム・マネジメント分析シートを基に作成した後，学校四役で確認

し完成させる。後にカリキュラム・マネジメント分析シートとともに，現職教育において全教職員に配付し共有する（資料２）。

【資料１　カリキュラム・マネジメント分析シート】

カリキュラム・マネジメント分析シート（今伊勢小学校）

【 ○:プラス要因 ▲:マイナス要因 数字:項目の総得点の平均】

「関連性（つながり）」はあるか

生徒や地域の実態（長所や課題）把握の様子

	【 プラス要因 】	【 マイナス要因 】
外部環境	Opportunity （ 機会 ） ○ 保護者は学校行事に協力的に参加できる。 ○ 地域住民は学校の取り組みに協力的に参加できる。	Threat （ 脅威 ） ▲ ミスや，自分への害には過剰に反応したりする。 ▲ 児童の生活や学校の活動に過度の干渉が入ることもある。
内部環境	Strength （ 強み ） ○ 児童は落ち着いた学校生活を送ることができている。 ○ 明るく元気に生活できる。 ○ 思いやりの気持ちを持っている児童が多い。	Weakness （ 弱み ） ▲ 多くの児童が受け身的であったり，主体性に欠けたりする。 ▲ 基本的な生活習慣が身に付いていない児童も多い。 ▲ 虐待やＤＶ家庭をはじめ，厳しい家庭環境にある児童も多い。

ア．教育目標

4	心身とも健康で，確かな力と豊かな心を持った今伊勢っ子を育成する。・命を大切にし，心豊かでたくましい身体をつくろう。・自分の考えをもち，自ら学び，力をつけよう。・きまりを守り，礼節を重んじ，思いやりのある生活をしよう。そして，みんなで築こう誇れる今伊勢小学校。
3	自校の児童・生徒につけさせたい資質・能力 発達段階に応じた基礎的な学力，体力，判断力。◎自ら考え，主体的に行動できる力。
2	設定・共有化の様子 ／ 実現化の状況
1	○校長が決定，職員会議で説明，及び学校経営案にて共有した。 ▲ 日々の業務に追われ，十分に共通理解ができていない。 ／ ○年間２回の研究授業を通して，授業改善について考えている。 ▲日々の業務に追われ，十分に共通理解ができていない。

① 反映　② 成果

イ．カリキュラムのＰＤＣＡ

4 3 2 1	Plan（計画の様子）	○ 年度当初に学校の方針，現職教育の方向性を示している。 ○ 学期の初めに評価基準・方法を計画している。 ○ 対話的な学びについて，指導案の中に明記する。 ○ 主体的な学び・対話的な学びについて具体的に検討する。	▲ 年度当初の計画が浸透されにくい。 ▲ 主体的・対話的・深い学びについて，具体的なイメージが持ちにくく，はっきりと指導できる教員が少ない。 ▲ 勤務時間内に検討時間を設定することが難しい。
4 3 2 1	Do（実施の様子）	○ 児童の実態に合わせて授業を実施している。 ○ 指導案の中に明記された対話的な学びを意識して授業を行うことで，指導の留意点について考えることができた。 ○ 授業内で児童が何をすればよいか分かりやすかった。	▲ 研究授業を行う際に，多くの職員が参加できる時間を設定することが難しい。 ▲ 授業内に見せた児童の姿が，対話できていたのかを指導できる職員が少ないため，活動していたから良い授業となりがちであった。
4 3 2 1	Check（評価の様子）	○ 年間・学期・単元指導計画に基づき，評価をしている。 ○ 授業後の研究協議において，具体的に明記した点について的を絞り，検討することができた。 ○ 対話的な学びについて，深く考えることができた。	▲ 検討会をもつ時間の設定が難しい。 ▲ はっきりと指導することができる職員が少ないため，これまでの授業研究を越えるような研究協議が持ちにくく，「いい授業だった」で終わってしまうことが多い。
4 3 2 1	Action（維持・改善の様子）	○ １学期に行われた授業を振り返りながら，他学年において，対話的な学びはどのようにすることかを考えることができた。 ○ いろいろな教科において，対話的な学びとはどうすることなのかについて考えることができた。	▲ 手探りの部分が多く，全ての教科における具体的な答えを示すことができる職員が少ないため，はっきり判断することができない。 ▲ 学期に１回，各学年１人という少ない回数の中で，全体に意識を持たせることは難しい。

⑦ 影響　⑥ 影響　⑧ リーダーシップ

「対応（つながり）」はあるか

③ 相互関係　⑤ 相互関係

オ．リーダーシップ（校長，副校長・教頭，主任など）

4 3 2 1	○ 校長のリーダーシップのもと，教育目標の実現にむけて努力している。 ○ 教頭が全体を見ながら定期的に振り返りの場の設定を行っている。	▲ 日々の業務に追われ，十分な時間設定をすることが難しい。 ▲ 学年間において，取り組み方における差が出てしまう。

⑨ リーダーシップ　⑩ リーダーシップ

教育活動　経営活動　学校内

「協働性（つながり）」はあるか

ウ．組織構造（工夫や課題）

4	［人］（配置，人材育成など） ○ 他校に比べ職員数が多いため，年齢層の幅が広い。 ▲ ミドルリーダーとなるべく４０代の職員が少ない。
3	［物］（施設，設備，時間，情報など） ○ 管理職が率先して，業務内容の簡素化，時間の確保を進めている。 ▲ すべての施設の老朽化，全校児童数の増加による保管場所の不足。
2	［財］（予算など） ▲ 恒常的な不足。教材・教具を簡単に購入する予算はない。
1	［組織と運営］（校務分掌，指導体制，校内研修など） ○ 各学年１回の授業研究の時間は確保している。 ○ 分掌ごとで，声を掛け合い進めることができている。 ▲ 時間の確保が十分でないため，いろいろなことが形骸化している。

④ 相互関係

エ．組織文化

4	［学校文化］（校風や伝統，カリキュラムに対する考え方など） ○ 学年ごとに取り組むことが多く，各学年が比較的まとまっている。 ▲ 学年ごとに取り組みについての温度差がある。
3	［児童文化］（児童の特徴） ○ 児童は落ち着いた学校生活を送ることができている。 ○ 明るく元気に生活でき，思いやりの気持ちをもって生活できる児童も多い。
2	▲ 授業において自分の考えに自信が持てず，進んで発言できない児童もいる。
1	［組織文化］（教員のものの見方，考え方，行動様式，雰囲気など） ○ 学年によっては，学年で児童への対応ができる。 ○ 分掌をこえて，協力していく雰囲気はある。

⑪ 連携・協働　⑫ 指導・支援

カ．家庭・地域社会等（他校・企業なども含む）

4	○ 年間２回，中学校区の小中学校の４役が集まり，それぞれの学校の現状の情報交換を行い，中学校入学までにつけさせたい力について話し合っている。
3	○ 学期１回公開日を設定して参観してもらったり，学年通信を利用して学習について協力をお願いしたりするなど，いろいろな場面で家庭に協力を依頼できる。
2	
1	▲ 家庭の協力が得られない児童もおり，差が生じてしまう部分がある。

キ．教育行政（文部科学省，教育委員会，総合教育センターなど）

4	○ 訪問アドバイザー研修や，自主研修会の開催など，市教育委員会から学ぶ機会が与えられる。
3	○ 年１回の学校訪問において，学校全体への指導を受けることができる。
2	○ 各校１人担当指導主事が配置され，いつでも相談することができる。 ▲ 職員が多忙なため，研修会への参加が限られる。
1	▲ 研修内容を伝達，共有する時間の確保が難しい。

学校外

【資料２　グランドデザインの作成】

【2019 年度　一宮市立今伊勢小学校グランドデザイン】

（スローガン）「力いっぱい　いい笑顔」

教育目標　心身とも健康で，確かな力と豊かな心を持った今伊勢っ子を育成する。
・命を大切にし，心豊かでたくましい身体をつくろう。
・自分の考えをもち，自ら学び，力をつけよう。
・きまりを守り，礼節を重んじ，思いやりのある生活をしよう。
そして，みんなで築こう誇れる今伊勢小学校。

目指す児童の姿
笑顔で頑張る子・自ら考え，主体的に行動できる子

豊かな心
・道徳的な判断力，心情，実践意欲
・基本的生活習慣
・行事や体験を通して感動を味わう
・進んで読書
・いじめがない学校
・共感的な人間関係づくり

未来に生きる力
・情報化社会に適応する資力
・論理的思考
・伝統と文化に対する関心や理解
・英語によるｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力
・自然環境や物を大切にする心
・夢や希望・目標に向かって努力する力

子どもの実態
（H30 年度児童自己評価）
・学校は楽しい　67%
・将来の夢や目標をもっている　85%
・人に親切にしたいと思う　75%
・授業はよく分かる　53%

確かな学力
・基礎的・基本的な知識と技能
・学年に応じた学習規律や学習習慣
・思考力や表現力，ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力
・主体的・対話的に学ぶ力
・「聴く」「書く」「話す」力

健やかなからだの育成
・運動の楽しさを感じる心
・体力の向上
・望ましい食習慣・食事の取り方
・交通安全や防災安全等，危機対応能力

保護者の実態
（H30 年度保護者ｱﾝｹｰﾄ）
・進んで学習に取り組んでいる　22%
・授業が分かりやすい　21%
・学校や学級が楽しいと言っている　48%
・保護者の声が生かされている　17%

何ができるようになるか　○学校教育の基本（学校経営目標）

確かな学力の育成
・授業改善
・少人数指導を充実
・今伊勢中学校区５つの約束の定着
・主体的・対話的で深い学びの場を設けることを実現する授業を通して，「自分の考えをもち，自ら学び，力をつける」態度を養うことを重点目標にした現職教育の実施
・教員の授業力の向上
・個の特性に応じたきめ細かな指導・支援

豊かな心の育成
・道徳科の授業の充実
・「明るいあいさつ・返事・くつそろえ」の重点
・児童を主体とした学校行事や体験活動の充実（キャリア教育を核としたｶﾘｷｭﾗﾑ･ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ）
・朝読書や読書週間の設定
・いじめの未然防止，早期発見，早期解決
・ピア・サポート活動，Ｑ－Ｕにおける共感的な人間関係づくり
・家庭や関係機関との連絡・連携

健やかなからだの育成
・授業で運動の楽しさを味わわせる
・全校体制で水泳やなわとび，持久走の指導
・食育指導で望ましい食習慣や食事の取り方
・交通安全や防災安全等の安全教育の推進で危機対応能力の育成

未来に生きる力の育成
・ＩＣＴ機器の活用と情報モラル教育の充実
・プログラミング教育の推進
・伝統と文化の学習と国際交流
・英語教育の充実
・エコスクール運動やごみゼロ運動の実施
・キャリア教育の推進

信頼される学校
・　教師としての資質・能力を向上させ，**信頼される教師の育成**を図る。
・　授業参観，学年通信，ホームページなどを充実し，より多くの**情報の公開**に努める。
・　様々な教育活動に，ゲストティーチャーなどのボランティア支援を呼びかける。
・　校内の施設・設備の点検や整備を一層進め，**安全で美しい環境づくり**に努める。
・　**学校評価を教育活動に生かす**とともに地域に発信する。
・　要支援家庭・児童に対しては，**家庭や関係機関との**連絡を密にし，**連携**して取り組む。
・　今伊勢地区３小中学校が連携して**コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を推進**し，**保護者や地域の方の学校運営への参画**を進める。
・　多忙化解消にかかる業務改善に努める。

⑵ 育成を目指す資質・能力と関連付けた授業改善に向けた具体的な取組

① 各教科等で育成を目指す資質・能力の検討に活用した手法

教務主任が学校経営案を基に，資質・能力の育成に向けたカリキュラム・マネジメントシートの案を作成した後，学校四役で協議，検討し完成させる。このシートについて，総合教育センターでの研究協議会において，何か一つ各教科の指導の軸をつくるとよいと指導を受け，キャリア教育に軸を置いたものに修正し，現職教育において全教職員に配付し共有する（**資料９**）。

【写真１　現職教育（全体会）の様子】

② 重点目標の焦点化

１年目は，コミュニケーション能力の育成が，「対話的で深い学び」を意識した授業実践を行うことで図られるであろうとの仮説の下，全教職員で２回の授業研究を行う。全校で授業研究を行う上で，テーマが大きすぎて目指すべき最終の姿が分かりづらいとの意見が出る。

２年目は，教科等横断的な見方を意識して１年間の指導計画を確認し，更にキャリア教育に関する教育活動の洗い出しを行う。また，１年目の意見を受けて，授業においては，教育目標の中の「自分の考えをもち，自ら学び，力をつけよう」の確実な実現に向け，キャリア教育の基礎的・汎用的能力の一つ，「人間関係形成・社会形成能力」（他者の個性を理解する力・コミュニケーション・スキル等）の視点を意識しつつ，授業改善を行うことを共通の課題とした。

③ 育成を目指す資質・能力との関連を意識した授業改善

・教育目標の中の「自分の考えをもち，自ら学び，力をつけよう」の確実な実現に向け，キャリア教育の基礎的・汎用的能力の一つ，「人間関係形成・社会形成能力」（他者の個性を理解する力・コミュニケーション・スキル等）の育成として，対話的な学びに着目する。

・学習指導案・授業検討会において，「対話的な学び」を具体的な児童の姿で考える。

・授業改善に向けて，教育委員会の指導主事や，大学教授など外部資源の活用を図る。

⑶ 育成を目指す資質・能力の視点からの評価・改善の取組

① 学校の教育活動全体を通した取組の評価

３学期に行う年度末の学校評価アンケートで，次年度に向けて改善方法を考える。

② 「教育目標（目指す子どもの姿）に近づいているかどうか」の評価

本年度１学期末に，３学期に行う年度末の学校評価アンケートを行い，２学期以降，次年度に向けて改善方法を考える。

⑷ 授業研究，評価データを基にしたカリキュラム改善

① １年目（平成 30 年度）の取組（カリキュラム・マネジメントを模索する）

・取り組むべき課題の選択（分析シート等の作成）

・目指すべき方向性の確認（グランドデザイン・資質能力の育成シート）

・「対話的な学び」を意識した授業実践・グループ協議の実施

② ２年目（令和元年度９月まで）の取組

・学年主任を中心とした学年ごとでの教科等横断的な視点を取り入れた年間指導計画の見直し
・キャリア教育を意識した資質・能力の育成シートの作成
・「自分の考えをもち，自ら学び，力をつけよう」の実現を目指し，全教職員で目指す子どもの姿を確認しながら取り組む授業実践・グループ協議の実施

５　カリキュラム・マネジメントの取組の成果

(1)　１年目の取組の成果

①　「対話的な学び」を意識した授業実践

今回資料として高学年部会の算数科の授業（**資料３**），検討会での授業者反省・参観者の感想（**資料４**）を取り上げた。低学年部会は国語科，中学年部会は音楽科の授業においても，指導案作成の段階から，予想される児童の動きや考えを明記して授業を練り上げた。授業後の検討会において，授業者の反省，検討会においても，児童の具体的な姿に着目することで，「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」を意識することを習慣化した。

【資料３　第６学年算数科　単元名「比例と反比例」10／17 時間目の学習指導案から】

10分	2　問題文を読み、題意をつかむ。(対①) 【問題 1】 べニヤ板をたくさん用意しました。 1枚の厚さが 4 mmのべニヤ板を全部積み重ねて厚さをはかったら、約 60 cmありました。べニヤ板は全部で約何枚ありますか。	
	T：このような式で問題を解いた人がいます。どのような考え方をしていますか。 式 60 cm＝600 mm 600÷4＝150　　答え 約 150 枚 C：べニヤ板の全部の厚さを１枚の厚さで割っている。 T：どのような関係が言えそうですか。 C：比例の関係。 T：何が何に比例しているのですか。 C：べニヤ板の厚さは枚数に比例。 T：比例の関係を確かめる方法には、どのようなものがありますか。 C：表、式、グラフ。 T：では、表を使って確認しましょう。	・べニヤ板を用意し、問題場面を把握しやすくさせる。 ・学習活動に挙げたように、児童との対話を通し、児童の様子を確認することで、すべての児童が問題把握できるようにする。 ・問題把握の中で、これまでに学習してきた比例の関係を振り返ることで、本時の学習内容につなげられるようにする。 問題文や計算式から、比例の関係に気づくことができる。(発言)【知識・理解】
	3　本時のめあてを確認する。 めあて 比例の関係を見つけよう。	
展開32分	4　見通しをもつ。(対②) 【問題 2】 くぎをたくさん用意しました。用意したくぎは、すべて同じ種類です。全部のくぎの重さをはかったら、約 400 gありました。くぎは全部で何本ありますか。	
	T：くぎの本数はわかりますか。 C：わからない。 T：数える方法以外に、これまで勉強してきたことを使って、数を求めることはできないかな。	・くぎを用意し、問題場面を把握させる。 ・「これまで勉強してきたことを使って」と声をかけることで、比例の関係を使えばよいということに気づかせる。 ・「このままではわからない」や「1本のくぎ

見取り
【対話的な学び】児童との対話を通して，児童の様子を確認しながら，問題把握を行うことで，すべての児童が本時の内容に取り組むことができるようにする。

見取り
【対話的な学び】児童との対話を通して，本時の学習に必要な既習事項の振り返りを行うことで，比例の関係で必要な，表・式・グラフを使った見方について理解できるようにする。

○児童の様子：対話的に問題把握を行ったり，既習事項の振り返りを行ったりしたことで，2名を除く児童が自分なりの答えを持ち，表や式を使って考え方を表現することができた。さらに，表・式だけでなくグラフを使って表現し，この問題は比例の考えを使って解けばよいことを説明している児童もいた。表と式は比較的に考えやすいが，グラフとも結びつけて考えようとする姿からは，深い学びをしたことの表れであるとも考えられる。

【資料４　第６学年算数科　単元名「比例と反比例」10／17 時間目の授業終了後の検討会から】

○　授業者反省（一部抜粋）
・子どもは既習事項を生かしながら，反応よくついてきてくれた。自分の考えを表現していた。
・復習問題を初めは入れていたが，時間的に無理であった。
・既習事項の確認が大切になってくるので，そこに時間をかけた。
○　「対話」について検討会における授業参観者の感想（一部抜粋）
・最初の問題が比例につながっていると分からなかった児童が，教師との対話を通して，気付き理解を深めることができた。初めは，みんなの声を聴いて反応していた児童も，学習を通して，自ら考えたことを声に出すことができた。
・最初の問題で分からないと言っていた児童も，授業を進める中でヒントカードを活用したり，ペア対話で一生懸命説明しようとしたりしていた。
・途中「表を書いてもいいですか」という発言があり，これは既習事項を押さえたからこその発言であったと思う。
・教師との対話がテンポよく進められていた。対話が止まると思われたところも，スムーズに流れていたのは，教師との対話が児童にとって分かりやすいものだったからだと思う。しかし，自己解決の部分で児童の手が止まってしまったときに，別の児童Ａのつぶやきを取り上げられると，再び考え始めることができたのではないかと思う。

現職教育として年間２回の授業研究会を行い，各学年が必ず授業研究をすることで，コミュニケーション能力の育成を図る授業改善を行った。しかし，「対話的な学び」を意識した授業実践としたものの，テーマが大きすぎて分かりづらいという意見も出された。

【写真２　授業検討会の様子】

②　教職員の意識変化

年間２回の授業研究を行い，授業改善を行った。

１年目を終えたところで，カリキュラム・マネジメント検討用シートを，全教職員に実施した（**資料５**）。33 項目中 23 項目で数値の上昇が見られた。特に，カリキュラム・マネジメントにおいて大切な「全教職員で教育目標の実現を目指す」に関する項目において，12%数値が上昇したことや，組織構造において「教育課程の編成，評価や改善に全教職員が関わっている」という項目で数値が 32%上昇をしたことから，１年間を通しての取組が，全教職員に少しずつ浸透しつつあることが考えられた。

アンケート結果から，教科等横断的な教育課程の編成を意識する項目における数値の上昇，ＰＤＣＡサイクルのＰＤＡに関する項目の数値上昇からも，カリキュラム・マネジメントが意識されつつあることを見て取れる。

しかし，ＰＤＣＡサイクルにおける，Ｃに関する項目では，３項目中２項目において数値の下降，地域の人材や素材の積極的な活用における数値の下降からは，２年目に向けての課題も見られた。

【資料５　カリキュラム・マネジメント検討用シート１年目の結果】

	カリキュラム・マネジメント検討用シート1年目の結果		H30始	H30後
1	学校全体の学力傾向やその他の実態、課題について、全教職員が共有している。	教育目標	67%	79%
2	学校の教育目標や重点目標は、児童や地域の実態を踏まえて設定されている。		88%	100%
3	学校の教育目標や重点目標には、「児童に身に付けさせたい力」や「めざす児童像」が具体的に記述されている。		94%	92%
4	学校経営案や学年・各教科の指導計画等に示す目標や内容等は、それぞれが連動するよう作成されている。	P（計画）	82%	96%
5	学校経営案や学年・各教科の指導計画等に示す目標や内容の相互関連がはかられている		88%	96%
6	学習成果の評価(規準や方法、時期など)について、年度当初に計画している。		82%	100%
7	あなたの学校は、学校の教育目標や重点目標を意識して授業や行事に取り組んでいる。	D（実施）	85%	92%
8	あなたの学校は、学年・各教科等に示す目標や内容の相互関連を意識して、日々の授業を行っている。		82%	92%
9	あなたの学校は、既習事項や、先の学年で学ぶ内容との関連(系統性)を意識して指導している。		79%	83%
10	あなたの学校は、学校の年間指導計画の改善に役立つような記録(メモ)を残している。	C（評価）	61%	71%
11	児童の学習成果の評価だけでなく、教育課程や授業の評価も行なっている。		67%	58%
12	学校として取り組んでいる授業研究が学校の課題解決に役立っているかについて評価している。		79%	75%
13	年間学習指導計画の反省等を、次年度に向けた改善につなげている。	A（改善）	70%	79%
14	単元テストや全国学力状況調査等の分析結果を参考に、対象学年だけでなく学校全体の指導計画を見直し、改善している。		73%	75%
15	単元テストや全国学力状況調査等の分析結果を参考に、対象学年だけでなく学校全体の具体的な指導法を見直し、改善している。		61%	79%
16	あなたの学校は、学校の授業研究の成果を日常の授業に積極的に生かしている。		88%	79%

③　児童・保護者の意識変化

本校では，３学期前半に学校アンケートを行い，１年の振り返りと次年度に向けての課題を考えている。１年目は，児童・保護者の意識については，全ての項目において，前年度と比較すると数値が下がった（**資料６，資料７**）。児童アンケートの中で「学校は楽しいですか」という質問に対し，「はい」「どちらかというとはい」というＡ，Ｂの合計では大きな差は見られないが，「はい」と自信をもって答えた児童が減ったことや，「授業はよくわかりますか」という質問に対し，「いいえ」や「どちらかというといいえ」が増えたことは，取組の内容が浸透しなかったことの表れである。また，保護者アンケートにおいて「お子さんは授業が分かりやすく楽しいと思っている」という質問に対し，わずかではあるが「いいえ」との回答が増加していた。これは，児童の家庭でのつぶやきが反映された結果だと考えられる。

１年目の取組は，教師の意識改革にはつながったが，児童や保護者に伝わるまでにはいかなかったことが，それぞれのアンケートの結果から明らかとなった。２年目に向けて，更なる教師の意識の向上と，いかに児童や保護者の気持ちの変化に結び付けられるようにするかが，課題として残った。

【資料６　児童アンケート結果（学校評価アンケートから）】

	児童アンケート結果（学校評価アンケートから）	H29					H30				
	A はい,B どちらかといえばはい,C どちらかといえばいいえ,D いいえ	A	B	C	D	無	A	B	C	D	無
1	学校(がっこう)はたのしいですか。	73%	22%	4%	1%	0%	67%	26%	4%	2%	1%
3	将来(しょうらい)の　夢(ゆめ)や　目標(もくひょう)を　もって　いますか。	87%	12%	0%	0%	1%	85%	14%	0%	0%	2%
5	自分(じぶん)には　よいところがあると　おもいますか。	45%	41%	10%	3%	1%	44%	39%	10%	5%	1%
6	本(ほん)を　よむことは　すきですか。	62%	27%	7%	3%	1%	55%	31%	9%	5%	1%
7	授業中(じゅぎょうちゅう)　先生(せんせい)の話(はなし)や　ともだちの　発表(はっぴょう)をしっかりと　きいて　いますか。	63%	33%	3%	0%	0%	62%	32%	5%	0%	1%
8	みんなの　前(まえ)で　自分の　かんがえを　はっきりと　はなせますか。	36%	40%	19%	4%	1%	34%	37%	22%	6%	1%
9	ノートに　ていねいな　字(じ)で　かいて　いますか。	41%	40%	15%	3%	1%	43%	36%	16%	4%	1%
10	授業(じゅぎょう)は　よく　わかりますか。	56%	33%	8%	1%	1%	53%	34%	10%	2%	1%

【資料７　保護者アンケート結果（学校評価アンケートから）】

	保護者アンケート結果（学校評価アンケートから）	H29					H30				
	A はい,B どちらかといえばはい,C どちらかといえばいいえ,D いいえ	A	B	C	D	無	A	B	C	D	無
1	お子さんは、進んで学習に取り組んでいる。	23%	53%	20%	3%	0%	22%	49%	24%	4%	1%
2	お子さんは、授業が分かりやすく楽しいと思っている。	27%	54%	17%	2%	0%	21%	60%	16%	3%	1%
3	お子さんは、先生によく理解され、個に応じた指導を受けている。	34%	54%	10%	1%	0%	29%	59%	10%	1%	1%
4	お子さんは、元気に登校し、学校や学級が楽しいと言っている。	55%	39%	5%	1%	0%	48%	43%	7%	1%	1%
15	教室掲示や校庭の整備がされ、潤いのある学習しやすい環境作りができている。	29%	64%	6%	0%	1%	27%	66%	6%	0%	0%
16	情報伝達（学年・保健だより、ホームページなど）の内容は、保護者の要求に対して適切なものとなっている。	28%	63%	8%	1%	1%	26%	66%	6%	1%	1%
17	保護者の声に耳を傾け、教育活動に生かすことができている。	18%	68%	12%	1%	1%	17%	70%	11%	1%	1%
18	保護者との交流の機会（学校公開・学校行事など）を多く設け、学校を理解できるように工夫できている。	26%	64%	9%	1%	1%	24%	65%	9%	1%	1%

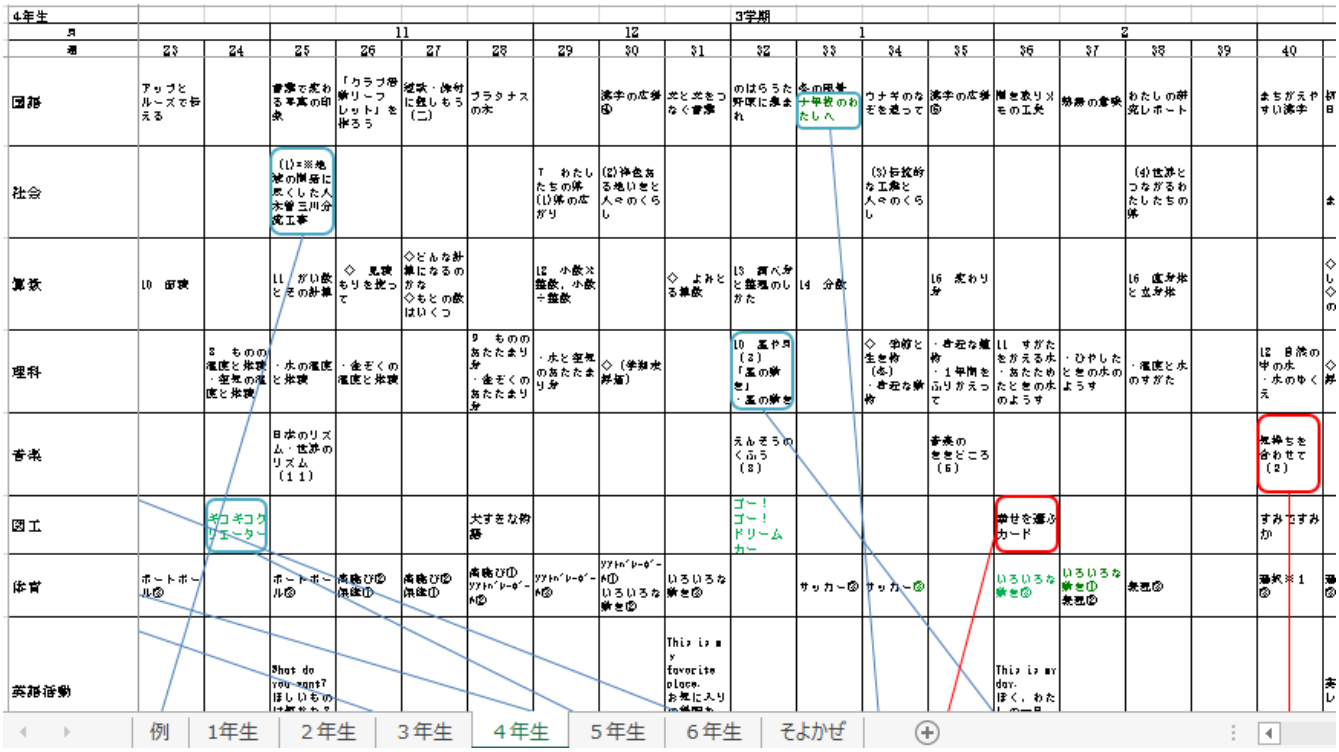
(2)　２年目（令和元年度２学期まで）の取組

①　教科等横断的な視点を取り入れた年間指導計画の見直し

年度当初，これまでの取組を振り返り，教科指導の中でできることは教科で育成し，つなぐことで

（教科等横断的な視点）より価値のあるものにしたり，簡素化したりすることを目的に，年間指導計画の見直しを行った（資料８）。

【資料８　教科等横断的な見方を取り入れた年間指導計画の見直し例】



② キャリア教育を意識した資質・能力の育成シートの作成

教育目標の中の「自分の考えをもち，自ら学び，力をつけよう。」の確実な実現に向けて，課題の焦点化を意識した。キャリア教育の基礎的・汎用的能力の一つ，「人間関係形成・社会形成能力」（他者の個性を理解する力・コミュニケーション・スキル等）の視点を意識しつつ，資質・能力の育成に向けたカリキュラム・マネジメントシートを作成することで，目指す児童像をより明確にさせ，授業改善に生かせるようにした（資料９）。

【資料９　資質・能力の育成に向けたカリキュラム・マネジメントシート】

学校教育目標

心身とも健康で，確かな力と豊かな心を持った今伊勢っ子を育成する。

・命を大切にし，心豊かでたくましい身体をつくろう。・自分の考えをもち，自ら学び，力をつけよう。

・きまりを守り，礼節を重んじ，思いやりのある生活をしよう。そして，みんなで築こう誇れる今伊勢小学校。

自校の児童・生徒に身に付けさせたい資質・能力

・笑顔で頑張る子・自ら考え，主体的に行動できる子

低学年	中学年	高学年
自分の考えとその理由を明確にする児童 ※自分の思いを表現する時間の確保	根拠となる事実を関連付けて考えを作る児童 ※直接体験を重視した学習活動	複数の事実を関係付けて解釈し，自分の主張を作る児童 ※話し合う，伝え合う活動の充実

国語

○経験したことや想像したことを，順序が分かるように書いたり話したりする能力。

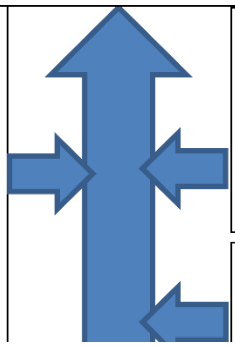
○事柄の順序や場面の様子に気付きながら読み，楽しんで読書をしようとする態度。

○相手や目的に応じ筋道を立てて話したり，段落相互の関係などを工夫して文章を書いたりする力。

○目的に応じ内容の中心をとらえ，段落相互の関係を考えながら読み，幅広く読書をする態度。

○目的や意図に応じ，考えたことや伝えたいことなどを的確に話し，筋道を立てて文章に表す能力。

○内容や要旨を把握しながら読み，読書を通して考



算数

○具体物を用いた活動などを通して，数量や図形についての意味の理解や豊かな感覚。

○数量や基本的な図形についての理解を深め，日常生活や学習の場で適切に用いる能力。

○数量や平面的・立体的な図形についての深い理解と，数学的な思考力・表現力。

生活

○自然，社会，人々とかかわりをもったり　自分自身のことや生活のことを考えたりすることで，

③　「自分の考えをもち，自ら学び，力をつけよう」の実現を目指した授業実践

１年目の反省を基に，教育目標の中の「自分の考えをもち，自ら学び，力をつけよう」の実現を目指し，キャリア教育の基礎的・汎用的能力の一つ，「人間関係形　・社会形成能力」（他者の個性を理解する力・コミュニケーション・スキル等）の視点を意識して，授業改善を行うことを目標にした。

ア　２年目１学期の授業実践

１学期は１年生（**資料 10**），４年生（**資料 11**），５年生で研究授業を行った。低学年・中学年・高学年部会を開き，「対話」を意識した学習についての検討を深めた。教師のねらいと，そのねらいが達成されたときの，具体的な児童の姿を，具体的に指導案に明記しながら進めた。授業終了後，指導案に書かれた具体的な姿を基に，検討会を進めた（**資料 12**）。

【資料 10 第１学年国語科　単元名「くちばし」５/９時間目の学習指導案から（一部抜粋）】

分	4　「はちどり」の場面を音読する。 ○Ｐ５３～５４を一斉読みする。 ○ペア読みをする。 （対話的活動１）	○教科書の持ち方、口形、姿勢に気を付けながら音読をさせる。 ○「問い」と「答え」を見つけながら読むように意識させる。 ○ペア読みをすることで、友達の表現を意識させる。 【関】大きな声で意欲的に音読をすることができたか。（観察）
	5　教科書からはちどりの「問い」と「答え」について書かれた文を見つける。 ○「問い」と「答え」になるところに線を引く。 ○ペアで「問い」と「答え」の部分を確認する。 ○ペアで「問い」と「答え」を読み合う。 （対話的活動２） ○ペアで発表する。	○間違えても直せるように、教科書に鉛筆で線を引かせる。 【書】「問い」と「答え」の文を見つけ、線を引くことができたか。（観察） ○ペアで「問い」と「答え」を確認させ、交代で読み合わせる。 ○ペアで、「問い」と「答え」を分担して発表させる。

今伊勢小_要野 覚 42 分前
教師のねらい：小学校に入学して間もない１年生には，国語の学習の中で，ペア読みをさせることで，互いに音読（発表）を聞き合うことで、意図的に話すこと、聞くことの練習をさせる。
児童の姿：どの児童にも，本文を大きな声で読む姿が見られた。

今伊勢小_要野 覚 数秒前
教師のねらい：「とい、○○でしょう。」「こたえ、△△です。」という話型を用いて発言させることで、自分の考えを伝えやすくする。

【資料 11　第４学年算数科　単元名「垂直・平行と四角形」４/13 時間目の学習指導案から（一部抜粋）】

		さは等しいことを想起させるよう声掛けをする。
（全体解決）	6　全体で発表する。（対話的で深い学び） 【予想される児童の考え】 ①頂点Ｂから４ｃｍとって頂点Ａを決めて、頂点Ａから辺ＢＣに平行な直線をひきました。 ②頂点Ｂと頂点Ｃから、それぞれ４ｃｍを測って頂点Ａと頂点Ｄを決めて直線で結びました。	○　児童の挙手が少ないようであればペア活動で発表させる。 ○　かき方を説明させながら、教師がその説明にしたがって三角定規などを使って黒板に長方形をかいていく。 ○　児童の説明を意図的指名でつなげることで①は平行の直線の引き方を意識して、②は長方形の性質の向かい合う辺の長さが等しいことを意識してかいたことをはっきりさせる。 ○　頂点Ｂや辺ＢＣなどの言い方が不十分であってもよいとする。
まとめ	7　本時のまとめをする。 【まとめ】 垂直や平行な直線のかき方を使うと長方形をかくことができる。	○　児童の言葉を生かしてまとめる。
（定着確認） ３８分	8　教科書の練習問題に取り組む。（Ｐ.68④） 【練習問題④】 １辺の長さが５ｃｍの正方形をかきま	○　正方形の定義（角がすべて直角で辺の長さもすべて等しい）を確認する。 ○　長方形と同じようにして正方形の問題にも取り組ませる。

今伊勢小_要野 覚 数秒前
教師のねらい：全体で発表する場面で、児童の説明を意図的指名でつなげていく。教師が机間指導で児童の考えた方法を把握し、意図的指名をすることで、長方形の性質を意識してかいたことをはっきりさせていく。また、他の児童にもう一度説明させることで、自己の考えを広げ深められるようにする。

【資料 12　第１学年国語科　単元名「くちばし」5/9 時間目の研究協議会での内容（一部抜粋）】

○授業者反省（一部抜粋）
・延長したので，時間配分に気を付けたい。
・「問い」と「答え」を見つけさせる段階で時間がかかった。
・児童は落ち着いて学習に取り組むことができた。
・ビデオを出すタイミングを悩んだが，教科書から読み取らせたかったため，ビデオは最後にした。
・１年生は何をやっても時間がかかるため，誰をどこまで支援すべきか考えたい。
○「対話について」検討会における授業参観者の感想（一部抜粋）
・学年・学校全体で系統的に，資質・能力の育成を図られるべきではないか。
・低学年における対話の基本は，「読んで聞くこと」と「伝えること」。
・児童は何が問いで何が答えなのかを把握していたので，なぜそこを「問い」と感じたのかを考えさせることが重要ではないか。
・動画を見て本文の答え合わせをすることは国語的ではない。
・ペア対話では自分の考えをもたせることが重要だと思う。
◎指導主事指導（一部抜粋）
・今後説明文を学ぶために参考になる単元である。ワークシートを工夫して，平仮名がおぼつかない子どもたちも授業に参加できるようにしていた。
・学習指導要領において，低学年の目指す国語の能力は「ことがらの順序を考えながら読む」「感じたことを読む」のが目標である。それを念頭に置いて指導していくとよい。
・ペア読みをさせるときに視点を与えると良い。（問いと答えを意識して…等）
・「対話的な学び」はあくまで手段であり，それが目的になってはいけない。活動ありきで考えないようにしてほしい。

１学期の授業実践を終えて，各学年のそれぞれの授業における課題はあったものの，どの部会においても，児童の具体的な様子を基にした検討会をもつことができた。外部からの参観者，指導主事，名古屋大学大学院教授　柴田好章氏からの指導を得て，２学期の実践に向けて検討を進めることとなった。

イ　２学期に行う公開授業に向けての指導案検討

夏季休業中に「教材研究の仕方」「カリキュラム・マネジメントを意識した授業改善」について，外部講師を招き現職教育を行った。その後，２学期の授業研究に向け指導案検討会を行った。

１学期の授業研究での反省を基に，次は２年生，３年生で国語，６年生で英語の授業研究会を行う。中学年部会の指導案検討会では，授業者の考えた「予想される児童の答え」に対して，検討を重ね，児童がより主体的・対話的で深い学びができる発問や学習活動について検討する姿が見られた（**資料 13**）。

【資料 13 中学年部会の指導案検討会の一場面】

５　「中」の事例の順序について考える。 ＜自分との対話＞ ＜仲間との対話＞ （１）個人で考える。 【予想される児童の考え】 ○いちばんわかりやすい順序。 ○見た目で大豆だと分かる順序。 ○手間がかかる順序。 ○時間がかかる順序。 ○違う食品にする順序。 ○大豆を変身させる方法が簡単な順序。　など	個 ワーク シート	問 筆者は、大豆を食べる工夫を何順で書いたのでしょうか。 ・⑦段落は「これらのほかに」「ダイズ」に着目させ、「これら」が③～⑥段落の大豆食品を指していることを確認し、思考の焦点化を図る。 ・叙述や写真をもとに、どんな順序で「中」の段落が説明されているかを考える。 ・ワークシートに自分の考えを書かせる。 ・個々の食品の比較にとどまらず、文章全体の構成として捉えることができるように、「きなこと豆腐はどちらも大豆の姿が分からない。姿の変わり具合で書くならば、きなこと豆腐は逆でもよいのではないか。」と投げかけることで、「そのままの形」「こなにひいて」「ちがう食品」に着目させ、③、④段落と⑤、⑥段落で変身の仕方が大きく変わっていることに気付くことができるようにする。 ・段落相互の関係と段落内の大豆食品の説明の順序の一貫性に気付くことができるように、見た目に着目した発言を取り上げて、「見た目で大豆かどうか分からない順になっていくのであれば、納豆と豆腐は順序が逆ではないか。」と問う。 ・どうしても書き込みが進まない児童には、ペア対話の後に書き込んでもよいことを助言する。

指導案のこの部分の検討中の会話

Ｔ１：「すがたを変える工夫を変身が簡単な順序に説明したのはなぜか。」と聞かれて，Ｔ２さんならどう答えるかな。
Ｔ２：「分かりやすいから」ですかね。
Ｔ１：Ｔ３ならどう答えるかな。
Ｔ３：「読みやすいから」ですかね。
Ｔ１：では，「予想される児童の考え」に挙げられているものって，実際に子どもから出てくるのかな。
Ｔ４：難しいと思います。
Ｔ５：だからいろいろな手立てが書かれていますよね。
Ｔ１：では「分かりやすいから」っていうけど，「何が」分かりやすいのかな。
Ｔ２：「何が」って，・・・。
Ｔ３：「姿を変える方法が簡単なものから書いた方が」・・・。
Ｔ１：「姿を変える方法が簡単なものから書いた方が」，なぜ分かりやすいのかな？
Ｔ６：ここまでは，子どもたちも漠然と分かりやすいという言葉を使って表現しているけど，それはあくまで自分目線での分かりやすさ。だから，ここで「何が分かりやすい」と，問うことで，「読み手によって」ということを意識させたいのです。
Ｔ１：では，この授業においては，子どもたちの表現に，最後「読み手が読んだときに分かりやすいから」と「読み手が」という言葉が出てきたら成功と考えればいいのかな。
Ｔ７：やはり「分かりやすさ」と言われても，いろいろな感じ方があると思う。しかし，今回の授業においては，教師の腹積もりとして，「いろいろなんが読んでも分かりやすい」というところを意識していけばいいのではないですかね。
・・・（略）・・・

このような検討会を４回重ねて２学期の授業公開を迎えた。

ウ　外部資源の活用を取り入れた授業改善

本校では外部資源の活用ということで，１年生が地域の老人から伝承遊びを教わる「昔遊び」や，２年生で地域の店舗や交番に行きインタビューをする「町探検」，月に１回ＰＴＡの方を中心に保護者が読み聞かせを行うなど，地域の方に協力をいただき教育活動を行っている。

【写真３　指導案検討会の様子】

しかし，授業研究においては，年に１回の学校訪問のとき市の指導主事や教科等指導員からの指導，若手教員に対し市の教育センターからアドバイザー訪問という形で指導を受ける程度であった。そこで，本年度は指導案の作成方法等について指導主事の指導を複数回受けるようにしたり，現職教育において本研究の顧問である大学教授から複数回指導を受けたりするなど，外部の資源の活用を増やし，教員の意識改革，授業改善に努めた（**資料 14**）。

【資料 14　柴田好章氏からの指導】

研究授業コメント　名古屋大学：柴田好章　2019.08.22

５組 英語活動　令和元年６月１０日（月）第５時限　５年５組教室　指導者　Ｔ１：Ｔ２

授業案		〔柴田〕	
児童の活動	○指導者の活動　・指導上の留意点	注目する事実	価値づけ意味づけ
３ Small Talk の活動を行う。 T1: Hi, Ms Hori. Well, when is Your birthday? T2: Me? My birthday is October eighth. How about you, Mr Nishivama? T1: It's August second. T2: Oh, I see. Bye. T1: Thank you. Bye.	・周りの人に届く声で練習させる。 ・T1,T2 ： 本時ではどのような活動を行えばよいか、Small Talk を示し、活動内容を掴ませる。 ○T1,T2 ：話す速さを意図的に少し遅くする。 ・T1,T2 ： 特に聞き取らせたい単語（birthday や when）を強調して発音して、単語を掴ませる。 ・T1,T2:あいさつや反応が大切であることを伝え、意識して活動に取り組ませる。 ・T1,T2:ジェスチャーやアイコンタクトが大切であることを伝え、意識して活動に取り組ませる。		○わからなければ聞けば良いという、ということが子供にわかる。 ○誕生日を聞かれるときの気持ち（プレゼントへの期待）が現れている。

エ　授業後の研究協議会

３学級で授業を行ったが，参観した先生方からは，児童たちが積極的に対話をしながら学びを深めることができていたという感想が寄せられた。また，その後の研究協議会においても，授業について具体的な子どもの姿で振り返ることができた（**資料 15**）。

【資料 15　研究協議会での内容（一部抜粋）】

○本時における学級全体での交流の場面での児童の対話について
・相手によって返答が変わる交流が，対話的な学びになっていた。
・英語で話すことは意欲的にできたが，文章で話すことが難しい児童がいた。対話的な学びはできていたが，深い学びは難しい。
・ふだん，意欲が低い児童も，積極的に友達に呼びかけ，懸命に英語を話していた。
・シェアリングをすることで，全体的にジェスチャーが増え，活気が生まれたので，とても有効な手だてであった。
・今，オリンピック・パラリンクピックの話題があるからこそ，導入を児童の生活におとしたものにすると，より，英語が身近なものに感じ，主体的な学びになったと思う。
○「筆者の説明の順序の効果を考える」部分で，児童は＜自分との対話＞，＜仲間との対話＞を行うことができたかについて。
・自分の気持ちと見比べて意見をワークシートに書くことができていた。
・友達との対話はできていた。
・自分の意見を言うだけではなく，相手の意見を聞くことができていた。
・教科書との対話ができていた。何か疑問に思うことがあったときに教科書に立ち戻り，教科書から探すしぐさが見られた。

④　教職員の意識変化

２学期終了時に，再びカリキュラム・マネジメント検討用シートを，全教職員に実施した（**資料 16**）。33 項目中 28 項目で，これまでの中でいちばんよい数値となった。特に，「学校全体の学力傾向やその他の実態，課題について，全教職員が共有している」「学校の教育目標や重点目標には，「児童に身に付けさせたい力」や「目指す児童像」が具体的に記述されている」において，最高値が得られたことから，２学期終了時には学校としての取組になりつつあることが見て取れた。

また，１学期末に下がったＰＤＣＡサイクルにおける，Ｃに関する項目も，全ての項目で数値が上昇した。これまでの取組を通して，授業改善につなげようとする思いの表れであると考えられた。日々，次時の教材研究，いろいろな行事や，事務処理に時間がかかることも含め，働き方改革・多忙化解消も含めての見直しの必要性も感じた。

【資料 16　カリキュラム・マネジメント検討用シートでの意識の変化】

			H30始	H30後	R1 1学期末	R1 2学期末
1	学校全体の学力傾向やその他の実態、課題について、全教職員が共有している。	教育目標	67%	79%	88%	97%
2	学校の教育目標や重点目標は、児童や地域の実態を踏まえて設定されている。	教育目標	88%	100%	94%	94%
3	学校の教育目標や重点目標には、「児童に身に付けさせたい力」や「めざす児童像」が具体的に記述されている。	教育目標	94%	92%	97%	97%
4	学校経営案や学年・各教科の指導計画等に示す目標や内容等は、それぞれが連動するよう作成されている。	P（計画）	82%	96%	97%	97%
5	学校経営案や学年・各教科の指導計画等に示す目標や内容の相互関連がはかられている。	P（計画）	88%	96%	97%	97%
6	学習成果の評価（規準や方法、時期など）について、年度当初に計画している。	P（計画）	82%	100%	100%	100%
7	あなたの学校は、学校の教育目標や重点目標を意識して授業や行事に取り組んでいる。	D（実施）	85%	92%	97%	97%
8	あなたの学校は、学年・各教科等に示す目標や内容の相互関連を意識して、日々の授業を行っている。	D（実施）	82%	92%	82%	91%
9	あなたの学校は、既習事項や、先の学年で学ぶ内容と関連（系統性）を意識して指導している。	D（実施）	79%	83%	85%	97%
10	あなたの学校な、学校の年間指導計画の改善に役立つような記録（メモ）を残している。	C（評価）	61%	71%	64%	79%
11	児童の学習成果の評価だけでなく、教育課程や授業の評価も行っている。	C（評価）	67%	58%	55%	76%
12	学校として取り組んでいる授業研究が学校の課題解決に役立っているかについて評価している	C（評価）	79%	75%	82%	91%

⑤　児童の意識変化

２学期終了時，本来なら３学期に実施する学校評価アンケートを児童に実施した。結果はほぼ全ての項目において昨年度末に行った結果を上回り，一昨年度の結果をも上回った（**資料 17**）。学校全体での取組が，徐々に子どもたちにも浸透し始めたと考えられる。最高値となったものの，「はい」と答える児童の割合が 70%に満たない項目がほとんどであるため，更に自信をもたせるための手だてを考え，継続的に指導に当たる必要性を感じた。

【資料 17 児童アンケート結果の推移】

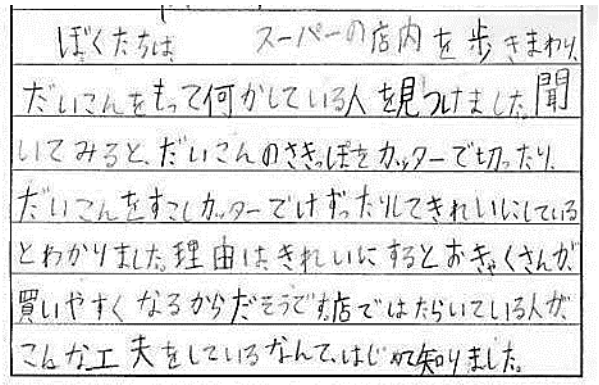
	児童アンケート結果（学校評価アンケートから）	H29					H30					R1 2学期末				
	A はい,B どちらかといえばはい,C どちらかといえばいいえ,D いいえ	A	B	C	D	無	A	B	C	D	無	A	B	C	D	無
1	学校(がっこう)はたのしいですか。	73%	22%	4%	1%	0%	67%	26%	4%	2%	1%	75%	21%	3%	1%	1%
3	将来(しょうらい)の　夢(ゆめ)や　目標(もくひょう)を　もって　いますか。	87%	12%	0%	0%	1%	85%	14%	0%	0%	2%	86%	13%	0%	0%	1%
5	自分(じぶん)には　よいところがあると　おもいますか。	45%	41%	10%	3%	1%	44%	39%	10%	5%	1%	50%	34%	9%	6%	1%
6	本(ほん)を　よむことは　すきですか。	62%	27%	7%	3%	1%	55%	31%	9%	5%	1%	58%	28%	8%	4%	1%
7	授業中(じゅぎょうちゅう)　先生(せんせい)の話(はなし)や　ともだちの　発表(はっぴょう)をしっかりと　きいて　いますか。	63%	33%	3%	0%	0%	62%	32%	5%	0%	1%	66%	31%	3%	0%	1%
8	みんなの　前(まえ)で　自分の　かんがえを　はっきりと　はなせますか。	36%	40%	19%	4%	1%	34%	37%	22%	6%	1%	41%	37%	17%	4%	1%
9	ノートに　ていねいな　字(じ)で　かいて　いますか。	41%	40%	15%	3%	1%	43%	36%	16%	4%	1%	44%	36%	16%	4%	1%
10	授業(じゅぎょう)は　よく　わかりますか。	56%	33%	8%	1%	1%	53%	34%	10%	2%	1%	58%	32%	7%	2%	1%

６　まとめ

２年間の指定を受けて，カリキュラム・マネジメントの在り方について研究してきた。来年度からの新学習指導要領の実施と，「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて，カリキュラム・マネジメントの充実が一層求められる。

２年目になり，ある教職員から「先生，この子たちすごいです。こんな文が書けています。」と言って声をかけられた。そして，３年生のある児童が，社会科「働く人と私たちのくらし」で，スーパー見学をした後にまとめたもの（**資料 18**）を見せてくれた。この児童が書いた内容からは，「何かしている人を見つけ」，「聞いてみる」，「理由は」と，学習問題を追究・解決する姿，そこで得たことを表現するという，社会科の目標を達成しつつあることが見て取れる。

【資料 18　３年生児童の感想】


ぼくたちは　スーパーの店内を歩きまわり
だいこんをもって何かしている人を見つけました。聞
いてみると、だいこんのさきっぽをカッターで切ったり、
だいこんをすこしカッターでけずったりしてきれいにしている
とわかりました。理由はきれいにするとお客さんが
買いやすくなるからだそうです。店ではたらいている人が
こんな工夫をしているなんて、はじめて知りました。

本校の中学年部会では，教育目標「自ら考え，主体的に行動できる子」の育成の実現に向けて，「根拠となる事実を関係付けて考えをつくる児童」を育てることを目標としてきた。この児童は，それを意識しながら，社会科だけでなく，全ての教育活動において取り組んできた結果の表れとも考えることができる。同時に，まだ十分ではないが，教職員一人一人の意識が，教育目標の実現に向けて取組，児童の具体的な姿で評価し始めた表れと考えられる。

本研究を通して，学校の教育目標についてより深く考えることができた。全教職員が，教育目標の実現を目指し，これからの未来を創造する児童を育成することは，私たちに与えられた使命である。教科等を横断的に捉え，ＰＤＣＡサイクルで質を高め，人的・物的資源，外部の人材・資源を利用することで，より効率的に質の高い教育を実現できるよう，今後も努力を重ねたい。